



平成 22 年 12 月 27 日

# さ く し ん

( 校長室だより 26 )

下氷鉦小学校

校長 大内 徹

毎朝昇降口前の池に注ぎ落ちる井戸水から、湯気のように白い煙が立ち昇っております。朝の空気が大変冷たく感じられるこの頃です。先日は、ご多用の中、保護者懇談会において下さりありがとうございました。懇談を通して、お子様の成長点や今後に向けての課題等について理解を深めていただくことができましたでしょうか。懇談会の期間中、私は教頭先生とパトロールも兼ねて、学区内を一巡しました。稲里公園や中氷鉦公園では、サッカーや野球のボールで楽しそうに遊ぶ子どもの姿がありました。ベンチに座り込んで顔をつきあわせている子ども達を見かけて、何をしているのかと覗いてみると、ゲームに興じておりました。他の方に移動してみると、二三人の女の子達が算数の宿題プリントをやっていました。帰り際に、サッカーボールで子ども達と戯れさせてもらいました。教頭先生のリフティングは大したものでした。さすが体育の先生です。私も負けじと、ドリブルでボールの奪い合いごっこをしてみました。三十秒かそこら走り回っただけで、ハーフ、ハーフと息が切れてしまいました。自分なりに体を鍛えているつもりでも、やっぱり子ども達にはかないません。それでも、子ども達からは「校長先生、うまいじゃん。絶好調!」と褒め言葉が返ってきました。サッカーが上手なだけでなく、お口も達者な子ども達でした。公園を出て、西友やヤマダ電機周辺の道路を車で走らせていると、自転車に乗っている子ども達を何人も見かけましたが、ヘルメットもきちんと着用しており良かったです。「この坂道は自転車事故のあった所だから気をつけるんだよ」という教頭先生の優しい声がけに、男の子達は「はいっ」と素直な返事をして通りすぎて行きました。ベシアにも足を運んでみました。屋上のゲームコーナーでは小学生を二人見かけましたが、いずれも本校の児童ではありませんでした。懇談会の期間中、特に子ども達の交通事故等が大変心配でしたが、事故は一件もなく幸いでした。ただ、戸外で遊ぶ子どもの数が意外と少なく感じました。「子どもは風の子」と言われるように、寒い中でも遊ぶのが普通かと思っていたのですが、家の中でテレビを見たり、読書をしたりして過ごしていたのかもしれませんが。もちろん計画的に学習をしていた子どももいたに違いありません。

私が小学生の頃は「遊び名人」で、本当に朝から晩まで遊び呆けていたものですから、外で駆け回っているお子さんを見るとついつい嬉しくなります。学校でも、朝の始業前や休み時間等に、汗をかくくらい校庭で遊んで満足げな表情で戻ってくる子ども達を見ていると、「これが子どもの本来の姿かな」と思うのです。もちろん男女差や個人差はあるのですが、子ども達は遊ぶのが仕事と言ってもいいくらいに遊びに夢中になり、遊びを通して仲間との関わり方を身につけ、同時に体力もつけていくのだろーと思います。そして、汗をかくくらいに体を思う存分に動かすことにより、心身のモヤモヤしたものが晴れて、ストレスも発散することができるのではないかと思います。

「健全な精神は健全な肉体に宿る」という諺もあります(英語では A sound mind in a sound body.)。障害の有無を含めて体の状況に、個人による違いはありますが、生きていく上でのエネルギーや活力を生み出す源である自分自身の体をいかに健全なものとするかということが今以上に注目され、大切にされなくてはならないと考えています。しばしば、学校教育が「智(知)」「徳」「体」の三つのキーワードで論議されることがあります。この順で考えると、「智(知)」「徳」は「体」に優先するように思われがちですが、私は三つとも同等に大切な領域であると考えています。智(知)のみが大切にされて、「徳」「体」が軽視されるような世の風潮には異を唱えたい者の一人です。自分の体や体力に関心を持って、健康な体づくりに励む子どもを育成していくことができれば幸いです。

裏面は 11 月 15 日の校長講話(人権同和教育旬間)より抜粋したものです。「徳育」「人権教育」に

関わる部分です。家庭でも話題にしながら、人との関わり方を考えさせる材料としていただければ嬉しいのです。

校長講話（１１／１５ 人権同和教育旬間）より抜粋

・・・先月でしたか、こんなことがありました。一体と二体の間の便所に、バキュームカーが停っていました。トイレのタンクに貯まっていた「うんち」や「おしっこ」を吸い出して、バキュームカーのタンクの中に移し替えているのですから、「うんち」や「おしっこ」の入り交じった中から発生するガスの臭いがしてきます。校長室や昇降口周辺にもその臭いが漂っていました。「ああ、今日はトイレをきれいにしに来て下さっているのだな」と、バキュームカーの方を見ていると、「クセー」「クセーと思ったら、バキュームカーだ！」という声が校長先生の耳に入ってきました。残念ながら皆さんの中のだれかの声でした。

「クセー」この一言はきっとバキュームカーの外で仕事をしている方や、車の中の方にも聞こえたに違いありません。みなさん、どうでしょう？ 便所から皆さんのうんちを取り出して、きれいにし下さっている方々の立場で、みなさんがこの「クセー」の一言を耳にしたら、どんなふうに思うでしょうか、どのように感じますか？ 「『臭い・・・！』だって？ 誰のうんちだと思っているんだい？」「誰がきれいにしてくれていると思っているんだい？」「バキュームカーが来なかったらどうなるんだい？」そのような言葉が返ってきてもおかしくはありません。でも、おじさんたちはそんなことも言わずに黙って仕事に励んでおられました。口には出されませんでした。心の中ではどのように思われていたのかな・・・と、校長先生はとても気にかかり、心配でした。バキュームカーが近くにいと、確かに臭いがしますね。でも、そのような時に、「くさい」と思っても、働いている人の前で声に出して言っているのでしょうか？ いけませんね。じゃあ、どんな挨拶をしたらよいのでしょうか？ 「こんにちわ」？ それも、いいですね。他には？ 「ありがとうございます」

そうですね。「ごくろうさまです」それも相手の苦勞をねぎらうことができいいかもしれません。私たち人間には、言葉という素晴らしいコミュニケーションの道具があるのですから、人様の心を温められるように使いたいものです。

私は、今、バキュームカーが来ていた時のことをお話しましたが、毎日の生活の中で、このように人の心を突き刺したり、気持ちを傷つけたりして悲しい思いをさせていることはありませんか。先週でしたか、群馬県の桐生市で６年生の女の子が自殺をしました。ニュースによると、自殺がいじめが直接の原因だったのかどうかははっきりしないようですが、給食の時間、〇〇さんは一人で寂しく食べていたそうです。お母さんが外国人だったことで友達から何か言われていたようでもあります。外国人だからどうのこうのといったとしたら、それは明らかに偏見や差別ですね。皆さんの学級にはそれに似たようなことはありませんか。お父さんやお母さんが〇〇だから、相手の体や顔つきがどうのこうの・・・と言って友達をからかったりいじめたりしている人はいませんか。もしいるとすれば、そのような人は一人の人間としてとても恥ずかしい人です。卑怯な人です。物を投げつけたり、殴ったり蹴ったりの暴力は言うまでもありませんが、人の心を傷つける言葉や行為も暴力と同じなのです。

私がこの学校に来た最初の年に校長講話の中でお話したことの繰り返しになります。覚えている人もいるかもしれませんが、先生の父親は全盲といって、全く目の見えない人でした。小学生や中学生の頃、全く目の見えない父親の手をひいて歩いたものですが、そのことで友達から馬鹿にされたり、じろじろ見られたりして、とても悲しい思いをしたことがありました。だから、いろいろなことで、馬鹿にされたり、からかわれたり、いろいろ言われたりする人の気持ちはよく分かります。校長先生は、それでも何とか切ない思いを乗り越えて、大人になってきていますが、皆さんのだれにでも、暗い悲しく、切ない思いを味わせたくありません。全校の皆さんに学校で明るく楽しく安心な毎日を過ごしてほしいと願っています。もし、あなたの周りに切なく悲しい思いをしている人がいるのなら、勇気を出して力になってあげてほしいです。また、からかわれたりいじめられたりしている人がいたら、独りで悩まず苦しまず、担任の先生やお友達に助けを求めて下さい。校長先生や教頭先生でも結構です。どんなことにも耳を傾けます。力になります。来年も蛸が舞うのを楽しみにしている優しい心をもっている皆さんなら、全校の力で切なく悲しい思いをしている友達をなくすことができると信じています。

